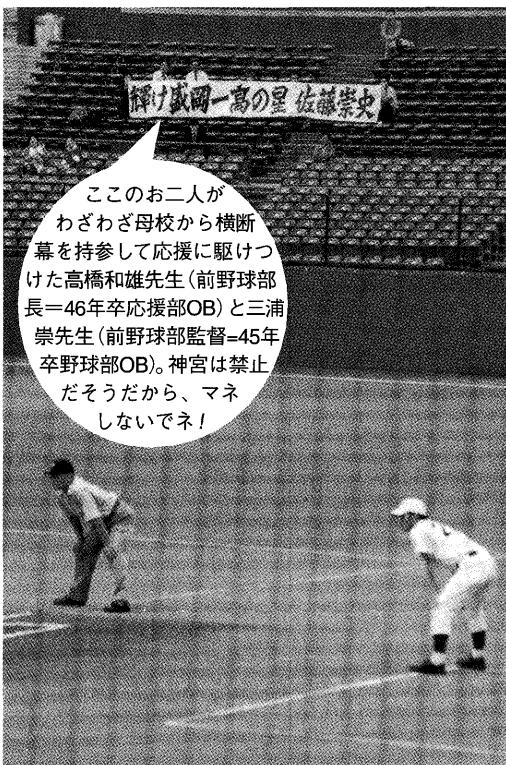


# 在京白聖会報

## 神宮球場に横断幕踊る

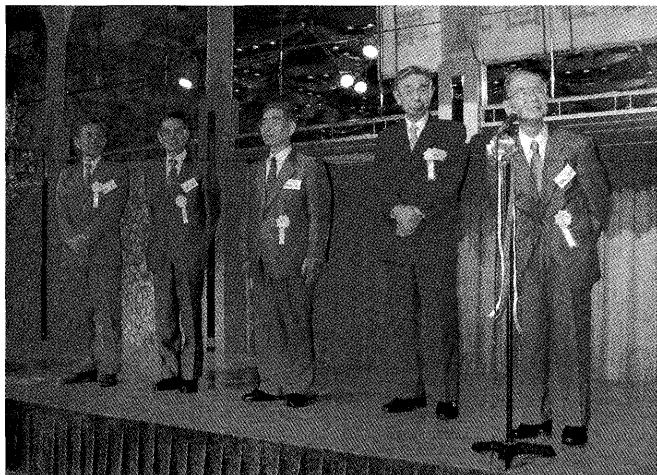


10月7日、神宮球場で行われた東京六大学野球秋季リーグ戦明大×早大戦で、外野席に「輝け盛岡一高の星佐藤崇史」と大書した横断幕が現れ、人目を引いた。平成10年3月卒で、明大野球部のレギュラーとなつた佐藤崇史君のシーズン最後の晴れ姿を応援しようと集まつた野球部の仲間やOBたちが掲げたもの。

この。横断幕は佐藤君の一高時代の野球部部長・高橋和雄先生と監督の三浦崇先生が、わざわざ一高の書道の先生に書いてもらつて盛岡から持参したもの。しかし、東京六大学リーグでは個人の応援は禁止ということで、あえなく撤去の憂き目に（以後、真似しないで）関連記事2面に

### 第32回 総会報告

## 高橋元昭元校長ら 恩師多数ご列席



「はじめて出席することができて嬉しい」と高橋元昭元校長（写真左）。他の恩師の皆さんも本当に楽しそうでした。

### 第11号

平成13年10月21日

発行

在京白聖会

〒101-0025 東京都千代田区  
神田佐久間町1-11  
産報佐久間ビル  
産報出版（株）内  
TEL&FAX (03) 3254-9301  
<http://www.hakua.sokei.co.jp/>

去る5月11日（金）、第32回在京白聖会総会が、ホテルフロラシオン青山にて開催されました。参加者総数は、約30名、平成年次卒業の若手も20名弱参加してくれました。

今年は、母校から三田信一校長先生、白堊同窓会から八角正司副会長、さらに今年度の幹事役44年卒の招待で、在校時の先生方である高橋元昭校長先生、岩渕正和先生（数学）、梅津修甫先生（生物）、佐藤晴信先生（国語）、高橋力先生（国語）が参加してくれました。

高橋元昭先生は、「長生きするのはテストで90点取るよりも難しい」と90歳という高齢を思ふせない、ユーモアたっぷりの挨拶



大先輩の会員もこの日ばかりは青春時代に戻って。



次年度代表幹事の加藤文也さん。次回はもう半年先。よろしくね、45年卒新幹事のみなさん。



今年の総会は昭和44年3月卒業が幹事。この年の野球部の甲子園出場がきっかけとなつて在京白堀会が発足した。そこで今回は、平成八年の秋季大会で優勝し、あわや選抜出場の夢を与えてくれた平成10年3月卒業の野球部メンバー2人に、野球部OBの菊地拓さんがインタビューした。

## 社会人を経て、目標はプロ野球（佐藤崇史）

**菊地** 佐藤君は明大野球部でレギュラーとつたけど、これは大変なことだよね。

**佐藤** PLとか甲子園のスーパーが集まり、最初はカルチャーショック（笑）。1～2年までは絶対、神宮には出られないと思っていました。けれど、3年の夏ごろからある程度の結

果が出はじめ、行けると思えるようになりました。

**菊地** 今年の春には、野球ができなくなるような大怪我をしたんだつて。

**佐藤** ええ、試合後の守備練習でバツクホームをしようとしたら、肘の骨がパーンという音がして骨折です。3年の夏ごろから少し痛かったのを、勝負を賭けていて無理したのがいけなかつた。救急車がきて、これで野球ができなくなると思った瞬間涙が出てきました。結局、6月まで棒に振り、7～8月は2軍で調整、9月になつてようやく一軍に戻ることができました。

**菊地** 高校と大学では、練習はどういうに違いましたか。

試合に出られるのは9人+αだから、練習はみんな遅くまでやります。やらないとすぐレギュラー落ち。僕は野球が大好きで、好きな野球のためだけに24時間

**佐藤** 正直、メチャ悔しかつた。卒業後の進路は2人とも決まっていますか。

**菊地** 卒業後は2人とも決まっていますか。

菊地拓（ひらく）さん。野球部。昭和63年3月卒。二〇〇〇年、平河町に税理士事務所を開設。税理士会野球などで活躍中。

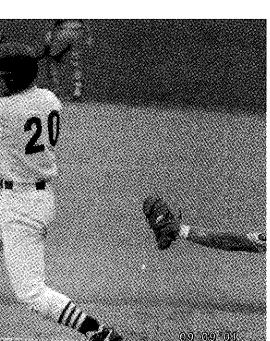
**吉田** 5点取られたら6点取る打撃のチームで、最後は1点差で勝っていました。1試合ごとに力をつけて強くなつていった感じです。メンバーもいい選手が揃っていました。甲子園切符を逃したのは悔しいけど、一緒に戦ったメンバーは生涯の財産だと思っています。

**菊地** 本家版といったところ。これを訪問すると、優雅な盛岡弁で返事がいただけるかもしれませんよ。

「在京白堀会」は仮住まい、青木透（とおる）さん。5番キャッチャーで、秋季優勝チームのキャプテン。平成10年3月卒。早大商学部に進学し、野球は同好サークルや草野球リーグ戦などで楽しんでいた。現在4年生で、富士フィルムへの入社が決まっている。

「盛岡41会」は七夕会の盛岡3つのようです。

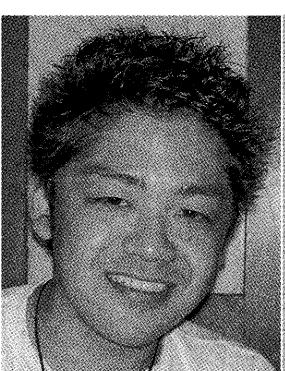
「盛岡41会」は七夕会の盛岡3つのようです。



佐藤崇史さんの神宮六大学野球での雄姿

**佐藤** 社会人野球で仙台の七十七銀行に入部することになつてます。野球で人並みの給料がもらえるようになつたら、もう一つ上を目指したいと思つています。その意味では、プロ野球選手が多く伝統のある明治に入つてよかつたと思います。

「在京白堀会」は仮住まい、「47東京白堀会」は気合い十分です。その他、漏れがあれば次号でまた紹介します。



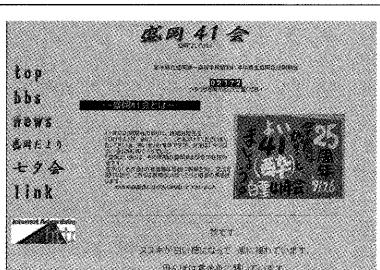
佐藤 崇史（たかふみ）さん。3番ファースト。左投げ左打ちで強打を誇る。平成10年3月卒。明大政経に進学し、野球部で四年生。左のビンチヒッターの切り札としてレギュラーに。社会人野球の七十七銀行（仙台市）入部が決まっている。

**菊地** 秋季大会の優勝チームは使つてきました。今はプレッシヤーを楽しむというか、それがないもの足りない気分です。

**吉田** 一高で野球ができたから今のぼくがあります。この出会いを大切にしていきます。



在京白堀会のアドレス  
<http://www5.ocn.ne.jp/~sawafuji/hakuadousoukai.html>



盛岡41会のアドレス  
<http://members3.tsukaeru.net/yoikai/>



寄稿

# 卒業五十年 そして「古稀」

## —記念行事は母校での“再履修”！

「盛中では人物考査、身体検査の二点に重点を置き先ず国民学校長の成績内申と志願者の口頭試問の結果を総合して採用する方針であるが、第一に純心であり、正直である生徒を望む。また今日のような時局に際し、中

学生として敵国の中学生におくれを知らないような生徒であり（中略）必要なことは中学生として勤労に耐え得る身体を持った者を希望している（後略）」

昭和20年2月17日新岩手日報

県下中学校入学考査方針と題した抜粋記事である。

かくして合格した330人

その時は、半年以内に敗戦の憂き目に遭うなど夢にも思わなかつた昭和20年4月。盛岡中学校の入学式において、時の新田信寛校長は、出席した父兄に対し「皆様のお子さんの命は、校長たるこの私がお預かりしました」と挨拶で述べられ、父兄は、この場でも戦況の厳しさを思い知らされた。その校長先生の胸中の痛みもまた如何ばかり

名簿のアンケートにご協力下さい。

**締め切りは12月15日(土)**

平成14年版の在京白聖会会員名簿を作成しますので、アンケートにご協力下さい。締め切りは12月15日(土)必着でお願いします。名簿はB5版約300ページで、約4,000名の会員を収録。会費を納入されている会員には無料で送付いたします。

●甦ったCD「世に語われし浩然の一」制作について  
このCDは、母校の創立百周年を記念して、昭和55年に製作したレコードをCD復刻したもので、CDの由来は、我々盛岡一高昭和43年度応援委員会有志が、母校創立百周年を記念して、後世に残るものと発案し制作したもの。利益が出た場合は母校に記念品を贈ろうということでとりかかりました。

昭和55年1月

27日、レコード

会社の技術者が

機材を持って母

校に集ま

り、当

時の現

役の応

援委員

と在校

生有志

が齊唱して校歌、

応援歌全曲と愛唱歌。



### ■お問い合わせ先

(担当片山卓朗)

Tel 03・5545・6471

Fax 03・5545・6472

E-mail

ta96@sky.sannet.ne.jp

片山・田中法律事務所

在京白聖44会事務局

〒107-0052 東京都港区

赤坂2丁目3番2号ランディツ

ク第3赤坂ビル7階

片山・田中法律事務所